



2026年2月13日

各 位

会 社 名 株式会社 MUSCAT GROUP
代表者名 代表取締役 大久保 遼
(コード：195A、東証グロース市場)
問合せ先 取締役経営管理本部長 森岡 祐平
(TEL. 03-6684-2373)

新金融戦略「成長還元型トレジャリー関連投資」の開始に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、当社の新金融戦略である「成長還元型トレジャリー関連投資」を開始することを決定いたしました。また当該戦略の第一回目の投資として、当社は、KLab 株式会社（以下「KLab 社」といいます。）の株式の取得を予定しておりますので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 当社の新金融戦略「成長還元型トレジャリー関連投資」を開始する背景について

当社は、「Difference for the Future.」というミッションを掲げ、SNS を中心としたマーケティングとデータ活用を通じて、幅広い領域で再現性高く成長ブランドを創出・運営するブランドプロデュース領域と、顧客企業のマーケティングを上流から下流まで幅広く一気通貫のソリューションで支援するブランドパートナー領域からなる、ブランドプロデュース事業にグループ一体となって取り組んでいます。ブランドプロデュース事業では、マス市場の中にある、成長性の高いニッチなニーズを精緻に捉え、その領域でのトップシェアの獲得を目指す「ニッチトップ戦略」を推進しています。

当社はこれまで、順調に自社ブランドの成長、M&Aによるブランドポートフォリオの拡大を実現してまいりました。また、商品企画から生産、マーケティングまで、一気通貫のブランド運営体制を整え、複数のブランドを再現性のある形で成長させていく基盤を整えてまいりました。

また、金融戦略においては、銀行からの融資による資金調達を軸とした金融戦略を推進してまいりました。その上で、継続的な融資を受けるための財務基盤を整えるためには、ブランドプロデュース事業を通じた利益成長が戦略の中心であり、2025年5月14日にお知らせいたしました「事業計画及び成長可能性に関する資料」に記載のとおり、中長期的な利益成長を目指した金融戦略を進めてまいりました。

一方で、ニッチ市場における競争の激化や、為替をはじめとする流動的な国際経済の状況を鑑みて、より加速的な「ニッチトップ戦略」の推進が必要だと分析しており、戦略的なM&Aを通じたブランドポートフォリオのさらなる拡張と、ブランドプロデュース事業のターゲットとなるニッチ市場の国内外での積み上げが必要不可欠と考えるにいたりました。

そのためには、従来の利益成長を通じた財務基盤の強化及び融資による資金調達の拡大に加えて、資本効率性を高めた攻めの金融戦略を通じた当社の財務基盤の強化が必要であり、事業の成長戦略を支える新たな金融戦略として、「成長還元型トレジャリー関連投資」の策定をするにいたりました。

2. 「成長還元型トレジャリー関連投資」について

「成長還元型トレジャリー関連投資」とは、資本効率の最適化と持続的な企業価値向上を目的として、手元流動資金を事業成長に資する戦略的資産へ投下する当社の新金融戦略です。「成長還元型トレジャリー関連投資」は、

一定程度の流動性および資産価値の向上が見込めるトレジャリー関連の上場株式や暗号資産等への投資を行うものです。また、単なる余剰資金の運用に留まらず、当社の中長期的な成長領域（グローバル展開・新規ニッチ市場の開拓等）と親和性が高いアセットへの投資を行います。

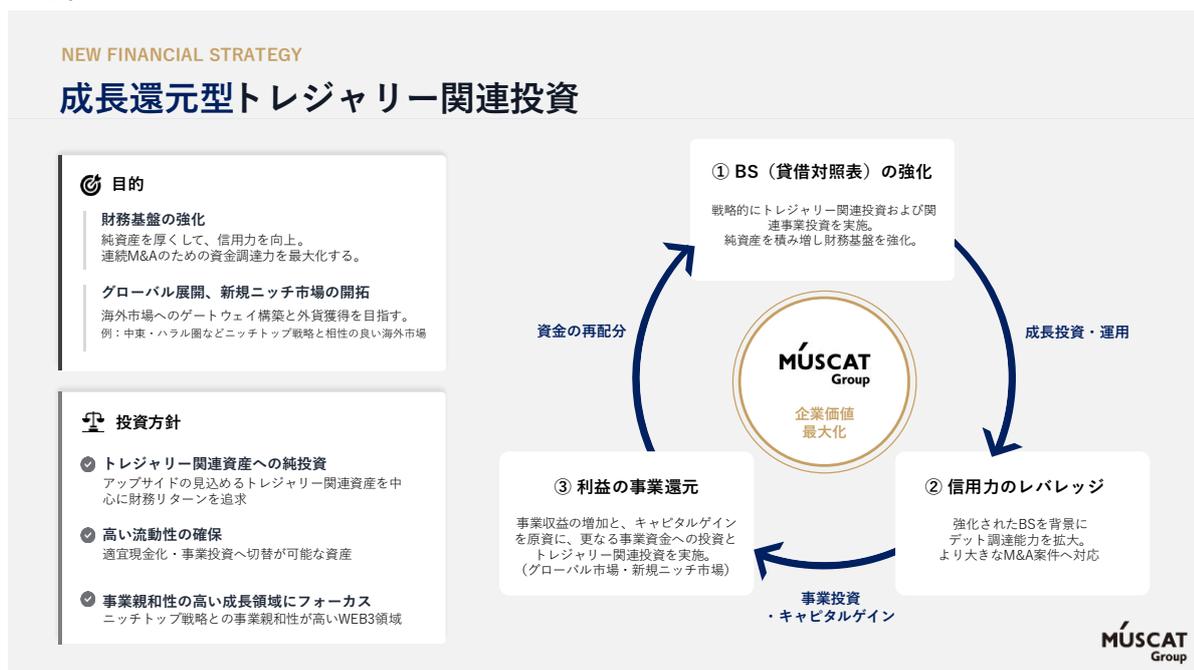
当社のブランドプロデュース事業は、ソーシャルネットワーキングサービス（以下「SNS」といいます。）からのデータを活用した商品企画や、SNS上の熱量の高いコミュニティを活用したマーケティングを強みの一つとしています。一方で、暗号資産が生み出されて以来、SNSを中心としたコミュニティに加え、WEB3と呼ばれる領域において暗号資産を技術基盤にした熱量の高いコミュニティが少しずつグローバルに育まれてきています。今後当社が「ニッチトップ戦略」を推進する上で、従来のSNSを活用したブランドプロデュースに加え、WEB3領域の市場の存在感が大きくなる未来の可能性に備え、当該領域を研究対象としておくことは、当社の企業価値を最大化する上で重要と考えます。

当社の「成長還元型トレジャリー関連投資」は、従来の暗号資産の買い付けを主力事業としていく一般的なトレジャリー戦略と大きく異なり、今後ブランドプロデュース事業に変化をもたらす可能性のあるWEB3領域において、事業との親和性の高いアセットへの投資を行うものであります。当社の新金融戦略は、純投資としてのキャピタルゲインの可能性に加え、WEB3プロジェクトのコミュニティに対して、そのコミュニティ内需要に沿ったブランドプロデュース事業を展開する等の実業を展開することで、当社はブランドプロデュース事業における競合他社に比して、WEB3領域において先行できる可能性を秘めています。

一方で、暗号資産関連の事業に対する規制強化、資産価格のボラティリティの高さ、といった懸念もあります。ただし「成長還元型トレジャリー関連投資」はあくまでも、ブランドプロデュース事業に関する企業価値を高めるための補足的な戦略として位置づけるものであり、短期および中長期双方の目線からのリスクを検討した上で慎重に進めてまいります。

「成長還元型トレジャリー関連投資」の推進により当社は、キャピタルゲインの獲得及び財務基盤の強化を目指すと同時に、業務提携やシナジー創出の可能性を模索します。成長還元においては、財務基盤の強化により融資等での資金調達能力を拡大し、M&Aをはじめとする成長投資の実施や、得られた運用益を通じた、機動的な本業のM&Aや新規事業投資への還元（再配分）を行い、財務と事業の双方向から成長を加速させるエコシステムを構築する狙いがあります。

また、当社は「成長還元型トレジャリー関連投資」の開始に先立ち、別途開示の「第三者割当による新株式の発行、ULTIMATE CLASSIC INVESTMENT LLC との資本業務提携契約の締結及び主要株主の異動に関するお知らせ」に記載の通り、ULTIMATE CLASSIC INVESTMENT LLC（以下「UCI社」といいます。）の支援を受けてまいります。



※「成長還元型トレジャリー関連投資」について

3. KLab 社株式への投資について

当社は、「成長還元型トレジャリー関連投資」の一環として、KLab 社株式を市場において取得することを検討しております。

- ・取得方法：
東京証券取引所における市場買付
- ・取得金額の上限：
2.5 億円
- ・取得時期：
2026 年 3 月～2026 年12 月の期間内で市場環境等を勘案しながら実施
- ・取得理由：

KLab 社はビットコイン（デジタルゴールド）と金（リアルゴールド）を企業の財務資産（トレジャリー）に組み込む革新的な財務戦略「デュアル・ゴールド・トレジャリー戦略」を実施しているトレジャリー関連の上場企業です。アラブ首長国連邦（以下「UAE」といいます。）の王族をはじめとする投資家等が支援する投資会社である UCI 社と資本業務提携契約を結んでおり、暗号資産及び暗号資産に関連する株式等の多様な金融資産の運用に関するノウハウ、中東地域における各種マーケティングに関する知見、中東地域の金融機関及び投資家へのコネクション等を保有しております。また、KLab 社は、企業経営および財務戦略領域において豊富な知見を有する UAE ラス・アル・ハイマ首長国の王族のシェイク・サレム・カリード・フマイド・モハメド・アル・カシミ殿下を顧問として受け入れております。本財務戦略を発表して以来、KLab 社の株式の出来高および株価は大幅に伸長しました。今後も、ビットコインおよび金の価格推移次第でさらなる企業価値の向上が期待できると考えております。

また、KLab 社は、アニメやマンガなどの人気が高い IP に関連するゲームをグローバル向けに配信することで収益を確保しています。2021 年以降は営業赤字が続いておりますが、足元ではコスト構造の改革が進んでおり、2025 年 12 月期第 3 四半期 決算説明資料において、前年同期比で約 3 割の固定費削減に成功しております。加えて、株式会社スクウェア・エニックスより 2026 年にリリース予定のスマートフォン向けローグライต์ RPG『ドラゴンクエストスマッシュグロウ』の開発を担当していることから、これまでの営業赤字体質から抜け出すことでの企業価値向上も期待できると考えております。

なお、KLab 社の株式取得については、公開買付け（TOB）を行うものではありません。KLab 社の株式取得は、議決権の行使や経営への関与を目的としたものではなく、純投資として行うものであり、当社は KLab 社の経営方針や事業運営に影響を与える立場にはありません。また、KLab 社の株式については、保有期間や処分時期をあらかじめ定めることはせず、市場環境や投資判断に応じて短期・中長期双方の運用視点をもって、キャピタルゲインの獲得が必要であると判断した場合には売却いたします。

4. KLab 社との業務提携と株式投資の関係性について

「KLab 株式会社との業務提携に関するお知らせ」にて発表した KLab 社との業務提携は、KLab 社株式の取得を前提条件とするものではなく、また、株式取得及び株式取得後の売却によって業務提携の内容が左右されるものでもありません。当社は、業務提携を通じた事業拡大の可能性と、KLab 社の中長期的な成長性を評価した純投資という、それぞれ独立した観点から検討を実施しております。

また、KLab 社の株式取得は、公開情報のみに基づき、当社の投資判断プロセスに従って行われるものであり、業務提携に関する未公表の重要事実に基づくものではありません。

5. 純投資の相手先の概要

(1)	名 称	KLab 株式会社		
(2)	所 在 地	東京都港区六本木六丁目 10 番1 号六本木ヒルズ森タワー		
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役社長 真田 哲弥		
(4)	事 業 内 容	モバイルオンラインゲームの企画・開発・運用、GPUサーバーの調達・販売・運用・保守、総合AIエンタテインメント事業、AIクリエイティブ制作事業等		
(5)	資 本 金	8,613 百万円 (2025 年12月末日時点)		
(6)	設 立 年 月 日	2000 年8月1日		
(7)	大株主及び持株比率 (2025 年12月31日時点)	I N T E R A C T I V E B R O K E R S L L C 12.71% 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) 5.48% 楽天証券株式会社共有口 4.56% 株式会社シックスセンスホールディングス 2.60% 青柳 和洋 2.32%		
(8)	上場会社と当該会社との間の関係	資 本 関 係	該当事項はありません	
		人 的 関 係	該当事項はありません	
		取 引 関 係	該当事項はありません	
		関連当事者への該当状況	該当事項はありません	
(9)	当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態			
	決算期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期
	純 資 産	11,709 百万円	10,371 百万円	10,304 百万円
	総 資 産	17,754 百万円	15,784 百万円	13,273 百万円
	1 株 当 たり 純 資 産	282.21 円	216.46 円	133.89 円
	売 上 高	10,717 百万円	8,306 百万円	6,856 百万円
	営 業 損 失	△1,218 百万円	△1,342 百万円	△1,304 百万円
	経 常 損 失	△852 百万円	△1,280 百万円	△1,421 百万円
	親会社株主に帰属する当期純損失	△1,819 百万円	△2,782 百万円	△4,176 百万円
	1 株 当 たり 当 期 純 損 失	△44.98 円	△62.91 円	△73.53 円
	1 株 当 たり 配 当 金	—	—	—

6. 今後の見通し

本株式取得が当社の当期ならびに来期以降の連結業績に与える影響については現在精査中であり、開示すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

以 上